

## No14 係や当番活動を行う際の配慮点について

他の人と一緒に一つのことをやり遂げよう、クラスのために頑張ろう、などの意識をもつことが薄いために、積極的に人と協力して仕事をすることが苦手な児童生徒がいます。また、一人でできる仕事は得意ですが、一人で勝手にやってしまうため、周りから苦情が出てしまうケースなどもあります。今回は、うまく係活動や当番活動が出来ず、混乱しがちな児童生徒の対応について考えます。

### (1) 係活動を行おうとする意識や意欲がどうしても薄く、活動をやらないことが多い。

・係活動の意義や仕事の内容が分かっていない。  
 ・活動の手順や動作がなかなか覚えられなくて、自信がないためやりたがらない。  
 等

・クラスの友だちのために働いたことで、喜ばれるうれしさや充実感を体験できるように励まします。  
 ・朝の歌タイムなどでカセットテープのスイッチを押す係とか、牛乳パックを重ねる係など、仕事が単純で内容がはっきりしている係、本人が興味を持ってそうな係につけるようにします。  
 ・いつ、どこで、何を、どうすればよいかを明確な仕事、手早く実行できるような仕事が適しています。  
 ・仕事が定着するまでは、活動をいつやるか、順番（手順表）などをカードに書いておくと安心します。

### (2) 本人なりに仕事をやっているが、周りとのトラブルが多いうまくいかない。

・自分なりの方法やペースでやってしまうので、友達から苦情がきてしまう。(でも、本人はどうして怒られたのかわからない)  
 ・臨機応変な行動を求められるとどうしたらよいか分からなくなり混乱してしまう。  
 等

・まずは係の仕事を行ったことに対して、認めてあげることが肝心です。  
 ・仕事をきちんと行ったにも関わらず、トラブルになった訳を本人に考えさせます。(残念だよね・・・という気持ちで)  
 ・原因を理解できない場合は、教師がその理由を本人に分かるように教えることが大切です。  
 ・次に仕事をする時に、同じようなトラブルにならない方法を考えさせます。(「こうするとみんな喜ぶよ」という分かり易い方法を教える。)  
 例) 黒板消し係(勝手に消して苦情がきた) 「消してもいいですか?」とみんなに聞く 「いいです」とクラスの人が出たら消す。等  
 ・新しい方法が確認されたら手順表に書き込み、確認しながら行えるよう支援します。



**<指導のポイント>**

係や当番活動のトラブルは、その子だけの問題としないで、クラス全体のこととして考え、協力し合い、当該児童がうまく出来たときには「ありがとう」がお互いに言えるような雰囲気作りが出来るとその子だけでなくクラス全体が育っていくものです。

クラス仲間から外れがちな児童生徒も、係活動などで自分の存在(居場所)を見つけることが出来るチャンスでもあります。